

1 総論——制度としての科学……………佐藤文隆……………1

一 ある架空の物語……………2

二 制度としての「科学」へ……………9

三 科学と国家……………15

四 科学者という職業……………18

五 二つの学問観……………23

六 科学は「美しい」か……………26

七 「科学」のインフラ化……………30

八 専門家集団の思考と行動……………32

2 専門家と素人の間……………米本昌平……………37

一 むかし大学紛争というものがあつた……………38

二 大学人と一般人……………44

三 研究という文化 52

3 科学者のエートス……藤永茂……55

一 エートス 56

二 マーティンの「科学者のエートス」 57

三 マーティンからクーンへ 61

四 クーニアン科学社会学の誕生 63

五 科学知識は社会的構築物か 66

六 二つの「科学者のエートス」論 68

七 それは戦後に消滅した 72

八 今なぜ「科学者のエートス」なのか 77

九 エピローグ 79

4 行動的研究集団の系譜……樋口敬二……83

はじめに 84

一 問題解決型研究 87

——寺田寅彦・中谷宇吉郎——

二 フィールド・ワーク型研究 91

——今西錦司・梅棹忠夫——

三 総合的共同研究 95

——桑原武夫——

四 国家事業型研究 100

——茅誠司・永田武——

五 国際協力型研究 103

——GENの場合——

5 研究と教育……………武部 啓……………111

——大学・研究所・学会

一 研究とは 112

二 大学における研究と教育 116

三 大学の研究・教育体制 119

四 研究所——その多様な形態と使命 121

7	ノーベル賞の功罪……………	173
7	おわりに	171
5	電子化はどう現状を変えるか	168
4	スタンダードの壁	160
3	インターネットが広げる差	157
2	ものをいうビジビリティ	152
1	リスクをどう伝えるか	148
	はじめに	146
6	科学情報と評価システム……………	145
	——グローバル化	
5	専門家集団としての学会	128
6	研究支援体制と研究費	134
7	研究・教育と倫理	138
	おわりに	142

はじめに 174

一 ノーベル賞の制定 177

二 科学研究の制度化 180

三 科学研究の評価 183

四 ノーベル賞の変質 186

五 科学研究の変質 189

8 SSC——巨大実験の科学……………高平 岩田 義光 信司……………191

はじめに 192

一 SSC前史 194

二 SSC計画の提案 197

三 SSC研究所 201

四 アメリカの議会における展開 206

五 SSC計画をめぐる論争 210

六 SSC以後の高エネルギー物理学 214

むすび 216

9 地震予知 茂木清夫 225

はじめに 226

一 地震予知研究の経過の概要 227

二 地震は予知できるか 231

三 伊豆大島近海地震 234

四 兵庫県南部地震の場合 239

五 「東海地震」の予知問題 244

おわりに 250